新製品紹介

25型ギガのデザインについて

Overview of the Exterior Design of 2025 Model GIGA

椎名　純一*
Junichi Shiina

要　旨

いすゞ「ギガ」は、1994年の登場以来、2005年、2007年、2010年、2015年とモデルチェンジを重ね、社会や物流環境の変化、技術の進化を捉えながらそのデザインを変遷してきた。25型ギガについては、各種車両制御機能や運転支援機能の拡充を主軸とした商品性向上を図っているが、同時に外観デザインにおいてもフロントフェイスを刷新することで、一層の訴求力の強化やブランド力の向上を狙ったものである。本稿では、その外観デザインの狙いについて紹介する。

Abstract

The 2025 Model GIGA features a redesigned front face that enhances visual appeal and reinforces the ISUZU brand identity. Based on the design theme "THE ULTIMATE," the exterior styling pursues a commanding presence and refinement befitting ISUZU's flagship commercial vehicle. This paper introduces the design concept and key styling elements of the 2025 Model GIGA.

1　はじめに

今回のフェイスリフトは、2015年のフルモデルチェンジ以来、およそ10年ぶりとなる大掛かりな外観変更となる。デザインテーマとして「THE ULTIMATE (究極の)」を掲げ、いすゞ商用車のフラッグシップにふさわしい車格感や存在感を極めたスタイルを目指した(**図1**)。

ギガが持つスマートな体格を活かしながら、より一層すっきりとしたクリーンな表情を与えること、時代に即したダイナミックさや新鮮さを感じさせる造形とすること、そしていすゞ商用車としてエルフ・フォワードとつながるブランドイメージの統一を図ることを念頭に置き、次世代のギガにふさわしいフロントフェイスを目指して、スタイルの開発を行った。

図1　25型ギガ　デザインテーマ

*デザインセンター

Copyright© 2026 ISUZU MOTORS LIMITED.
All Rights Reserved. 無断転載・複製・配布禁止

2　フェイスリフト概要

25型ギガでは、ラジエータグリル、フロントリッド、バンパファシア、ヘッドランプ及びランプベゼルなど、フロントフェイスの印象を大きく変える部分を主としてスタイルを変更した。空力性能及び冷却性能に影響を及ぼすコーナパネルやバンパグリルについては従前車のスタイルを踏襲することで、開発の造り込み期間を短縮し、効率良く開発を進めた(**図2**、**図3**)。

図2　イメージ比較図

図3　25型ギガ　変更範囲

3　各部のスタイルの狙い

スタイル開発過程では、意匠性のみならず冷却性能、空力性能、整備性などの機能面との両立を前提として検討を進めた。本節では、フェイスリフトの主なポイントである、

① ラジエータグリル周り
② ヘッドランプ周り
③ フェイスグラフィック

について、それぞれのスタイルの狙いを解説する。

3.1 ラジエータグリル周り

ラジエータグリルには、『地球を物流でつなげる』をイメージした、いすゞブランドアイデンティティ「ワールドクロスフロー」を採り入れ、先行して展開しているエルフやフォワードとのファミリー性向上と世代感のアップデートを行った。

「ワールドクロスフロー」は、センタバーの力強い水平フローと、両サイドの鋭く切りあがる斜めフローを特徴としており、25型ギガでは、より大型車らしいスケール感と存在感を強調するため、エルフやフォワードとは異なる独自のバランスで「ワールドクロスフロー」を再構築し、伸びやかさと量感の表現を主眼に造り込みを行った。カラーリングについては、造形の立体感が最も映えるメタリック色を新規開発し、スタイルを際立たせた。

「ワールドクロスフロー」を受けるグリルのベース部分には、緻密さを感じさせる造形処理、立体的な桟形状などを施し、「ワールドクロスフロー」を引き立て、車両全体に洗練感や引き締まった印象をもたらすスタイルとした。

また、グリル開口部を中心に、形状のスタディと冷却・空力解析を繰り返し、十分な冷却性能を確保しながら、造形を洗練させた(**図4**)。

図4　グリルデザイン

3.2 ヘッドランプ周り

ヘッドランプユニットには、フォワード(バンパヘッド車両)と共通のBi-LED*灯体を採用し、フォワードとの車格差をつけるため、25型ギガ専用にランプベゼルを設定した。ランプベゼルの造形により、鋭く精悍な目元を演出し、従前車から大きく表情を変えている(**図5**)。

*Bi-LED(Bi-functional LED:単一のLED光源で「ロービーム」と「ハイビーム」の切り替えが可能なもの)

図5　ヘッドランプデザイン

ランプ灯体の配置にあたっては、設計部署と密に連携をとり、ランプ周辺のバンパ構造物や補器部品とのレイアウト成立性を確認しながら、ミリ単位の調整を重ね、最適化を行った。ランプベゼル形状は、数多くの案を作成し、空力特性の向上やランプ取り付け作業性の向上などを織り込んだスタイルとした。

ランプベゼルのカラーリングについては、「ワールドクロスフロー」よりも明るい色調のシルバー色を新規に開発し、ベゼルの立体感をしっかりと出しながら、軽やかですっきりとした印象を与えるものとした。

3.3 フェイスグラフィック

ラジエータグリルについては、従前車に対してグリル上端を約95mm高く設定し、併せて幅も拡大することで、縦方向の伸びやかさを加え、大型トラックらしい存在感を高めた。グリル上端ラインは、従前車までの大きな特徴であった上向きにラウンドしたラインから、フラットなラインにキャラクターを変え、世代の変化を一層強く打ち出すものとした(**図6**)。

図6　フェイスグラフィック比較

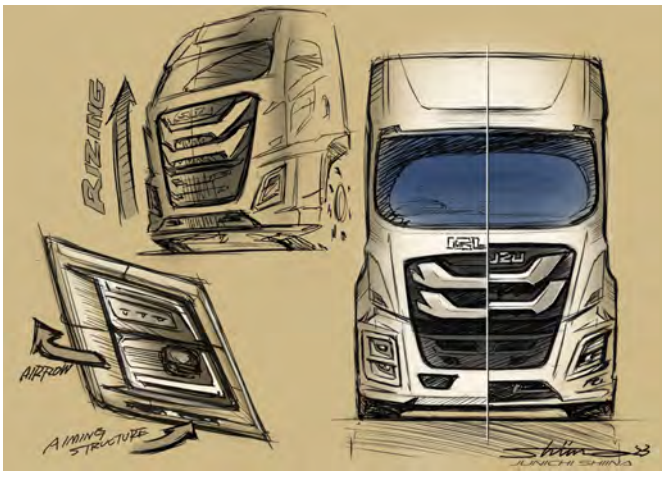
バンパでは、足載せステップ部分をハの字型の大きなブラックゾーンで括り、大型化したラジエータグリルを下支えするとともに、足元の踏ん張り感、スタンスの良さを強調するスタイルにまとめた。フェイス全体の印象を大きく変えながら、足載せ部を樹脂カバー化することで、踏み幅の拡大やグリップ性能の強化を図り、使い勝手や機能性の向上にも配慮した造形とした。

4　おわりに

25型ギガでは、ブランドアイデンティティの展開やフロントフェイスの刷新により、商品性向上に見合う新たな外観価値を創出することができた。

トラックのデザインにおいては、生産財としての機能性、コストなどを常に意識する必要があり、時にはそれらがスタイルを創っていくうえでの制約となる場面もある。しかし、そうした制約を感じさせず、製品が持つ性能の良さや商品の価値を強くアピールする、魅力的なスタイルを創出することがデザインの重要な役割である。今回の25型ギガは、さまざまな制約条件をクリアしながら、物流社会を支えるいすゞ商用車のフラッグシップにふさわしい、高品質なデザインにまとめあげることができたと自負している。

最後に、本プロジェクトのデザイン開発にご協力、ご尽力いただいた多くの関係者の皆様に心から感謝の意を表し、本稿の結びとしたい。



デザインスケッチ